

## 東南アジア在留邦人のデング熱に関する意識調査

<sup>1</sup>東京医科大学病院 総合診療科、<sup>2</sup>東京医科大学病院 渡航者医療センター

○山口 佳子<sup>1</sup>、福島 慎二<sup>2</sup>、水野 泰孝<sup>2</sup>、濱田 篤郎<sup>2</sup>

【目的】東南アジア在留邦人のデング熱に対する予防対策の向上を目的として、本疾患に関する意識調査を行った。

【方法】2011年12月、インドネシア、フィリピンの在留邦人を対象にアンケート用紙を配布した。アンケートの配布は現地開催の医療講演会の参加者やその関係者を中心に行った。調査項目は現地での健康問題への関心、医療情報の入手方法、デング熱の知識レベルや予防対策の実施状況とした。

【結果】今回の調査ではジャカルタから100名、マニラから76名の回答があった。現地で心配な健康問題としては「感染症」をあげる者が多く、ジャカルタでは回答者の70%、マニラでは75%にのぼった。心配する感染症の種類としては、ジャカルタ、マニラともに「デング熱」をあげる者が最も多かった。「周囲でデング熱患者が発生したか？」の質問にはジャカルタで48%、マニラで68.4%が「発生した」と回答した。一方で、デング熱の予防対策を実施している者は、ジャカルタで回答者の34%、マニラで67.1%であった。予防対策を実施しない理由としては「予防方法が不明」が大多数を占めており、知識レベルを問う質問でも予防対策（蚊に刺されない対策）に関する正解率が低い結果になった。

【考察】今回の調査結果より、流行地域に滞在する海外渡航者に対しては、デング熱の具体的な予防方法（適切な防蚊対策）について情報提供を行う必要があるものと考えられる。今後はアンケートの調査対象を拡大するとともに、調査結果をもとにしてインターネット上のホームページによる情報提供\*や流行地域の在留邦人向けに予防パンフレットの作成を行っていく予定である。

「海外旅行と病気.org」

<http://www.tra-dis.org/index.html>

## 表皮ブドウ球菌のもつ type III SCCmec について

<sup>1</sup>順天堂大学 医学系大学院 感染制御科学

○韓 笑<sup>1</sup>、伊藤 輝代<sup>1</sup>、平松 啓一<sup>1</sup>

【目的】MRC-NS は黄色ブドウ球菌へ耐性遺伝子を賦与する reservoir であると考えられている。我々は先に86株のMRC-NSを用いて黄色ブドウ球菌と同様の手法でSCCmecの解析を行った所、type III SCCmecを持つと思われる株が数多く存在したことに興味をもち、表皮ブドウ球菌のもつ type III 型 SCCmec の構造解析を行った。【方法】1. 供試菌株 2002-2003 年 東大病院及び順天堂医院分離 MRC-NS 86 株。2. mec 遺伝子複合体のクラス及び ccr 遺伝子のタイプを PCR にて決定。Type III SCCmec を持つと推定された (3 株: JCSC4926、JCSC4944、JCSC4895) の染色体 DNA を用いて、IlluminaHighSeq にて塩基配列を決定するとともに、PCR で増幅した DNA 断片の塩基配列を決定した。

【結果及び考察】1. 供試菌株 86 株中の *S. epidermidis* の割合が 58 株 (67.4%) と最も高かった。2. 58 株の *S. epidermidis* の中では classA mec 遺伝子複合体を持つものが 37 株で、この内の 36 株が type 3 ccr (*ccrA3ccrB3*) を保持していた。3. 現在 3 株の SCCmec の全塩基配列の決定をすすめているが、3 株の *mecA* 遺伝子周辺の領域は *S. aureus* の type II, III SCCmec 及び *S. pseudintermedius* KM1381 株のもつ SCCmec と高いホモロジーを示すこと、また type 3 ccr 遺伝子周辺の領域は *S. aureus* 85/2082 株や *S. pseudintermedius* KM1381 株のもつ SCCmec と高いホモロジーを示す事が確認されている。今後これらの株のもつ SCCmec の全塩基配列を決定し、*S. aureus* 及び *S. pseudintermedius* の持つ SCCmec と比較するとともに、その由来を考察する予定である。